

長野環境人士

自然に優しく、暮らしを楽しく

小林光さん対談企画

認定NPO法人軽井沢 a-trust 代表理事 加藤正文さんと語る

自然環境という資産を、国民・市民が購入や寄付によって入手し、守り、次世代につなげるナショナル・トラスト。認定NPO法人軽井沢 a-trust (エー・トラスト) 代表理事の加藤正文さん(82)は、軽井沢町の愛宕山の森を守るため、たった一人でこの活動を始めた。持ち前の明るさと行動力で多くの人を巻き込み、乱開発の可能性があった愛宕山の森の取得に成功。取得後も民の立場で自然環境活動を続けている。

愛宕山は標高1174mで、浅間山、離山とともに軽井沢を代表する山。年間を通じてにぎわいを見せる旧軽井沢や高級別荘地にほど近い場所にたえず。眼下に一等地が広がるロケーションを求め、一時は中国資本による買収の動きもあったという。そんな中、加藤さんは「とにかく愛宕山

の森を守りたい」という思いで2016年に前身となる愛宕山つべんの森を守る会を立ち上げた。17年には日本ナショナル・トラスト協会の助成を得て0.6haの土地を取得。その活動は徐々に広がり、22年に

は面積を4haにまで増やした。そして24年当初の目標だった5.2haの森の取得に成功し、乱開発の懸念から愛宕山を守った。「ナショナル・トラスト」とは何か。加藤さんは「自然に感謝し、行動で応えるための手段」と語る。



今後、人も人々が森に触れ、学び、遊ぶ機会をつくっていく。狙いは森好きの人を増やすこと。「森を好きになった人の心には自然を大切にしようとする気持ちが高く自然に生まれる」と信じている。

愛宕山の自然や景観について語る
加藤さん 4月21日、軽井沢町

(野村知秀)
10面に対談

